

北海道八雲町での体験について話す中学生



山陰中央新報

8月31日
水曜日

発行所
山陰中央新報社
〒690-8668
松江市殿町383
電話 総合案内
0852(32)3440

北海道・八雲町 八雲中生が今夏訪問

豊かな自然や食に感動

同じ「八雲」の地名で縁を結び、長年にわたって交流を続ける北海道八雲町に今夏訪問した松江市八雲町の中学生6人が30日、同町内で報告会を開いた。6人は現地でも触れた豊かな自然や食の経験を伝えるとともに「相互の良さを伝え、交流をもっと促していきたい」と語り、直線距離にして約900キロ離れている両町で、さらなる触れ合いの輪を広げようと思いを新たにしました。

(河野亜美)

3日間の交流体験を報告

北海道南部に位置する八雲町は国内で唯一、太平洋と日本海の二つの海に接する地。人口は1万7345人(7月末時点)で農業と漁業を主産業とする。木彫り熊発祥の地としても知られている。

その八重垣を「町名の由来。交流は1986年に始まり、小中学生の相互派遣は20年以上続いている。」

今年度の派遣は19、21日の3日間で行われ、八雲中3年の河野綾香さん(14)と同中2年の5人が参加。ホームステイや現地での中学生との意見交換、牧場でのアイスクリーム作りなどを体験

「松江市八雲町西岩坂の松江市八雲支所であり、地元有志でつくる「八雲の交流を進める会」(秋原司会長)の会員ら関係者が出席。生徒は「道路が広く、壮大な景色に圧倒された」「初めて食べたジンギスカンがおいしかった」など、自然や食への印象を口々に述べた。また、両町の共通点として「人が優しく、思いやりがある」ことを挙げた。

同会の秋原会長(62)は「行って終わりではなく、続けていくことが大切。多くの人に現地での様子を伝え、輪を広げてほしい」と伝えた。

した。

報告会は松江市八雲町西岩坂の松江市八雲支所であり、地元有志でつくる「八雲の交流を進める会」(秋原司会長)の会員ら関係者が出席。生徒は「道路が広く、壮大な景色に圧倒された」「初めて食べたジンギスカンがおいしかった」など、自然や食への印象を口々に述べた。また、両町の共通点として「人が優しく、思いやりがある」ことを挙げた。